



# 知っておきたい香川県のシンボル



香川の県章は、カガワの頭文字の「カ」をデザインしたもので、特色ある山の形と、平和のシンボルである「オリーブ」の葉を表現し、恵まれた風土にはぐくまれて、発展を続ける香川県の姿を象徴しています。このほかに、香川県のシンボルとして指定されているものがあります。



## ● 県木・県花 - オリーブ -

1908（明治41）年。小豆島の気候が、地中海沿岸によく似ているということで、オリーブの苗木519本が試験的に植えられました。そして、水野邦次郎と棟保善一郎たちのたゆまない努力の結果、日本で初めてオリーブの栽培に成功しました。オリーブは、モクセイ科の常緑樹で、初夏には白い小さな花をつけます。

また、オリンピックでは、平和のシンボルとして、表彰台にあがった選手に、オリーブの葉で作った冠がおくられます。

[オリーブの花・1954（昭和29）年指定]

[オリーブの木・1966（昭和41）年指定]



オリーブの花

● 県鳥 けんちよう -ホトトギス-

ホトトギスは、古くから歌や詩に多く詠まれている鳥で、5月ごろ南方からわたってきて卵を産み、9月ごろ南の国に帰っていく渡り鳥です。特徴のある声で「キョッ、キョッ、キョキョキョッ」と鳴くことや、ほかの鳥の巣に卵を産み、育てさせることで知られています。香川県でよく繁殖し、昆虫、特に毛虫を食べてくれる益鳥です。

[1966 (昭和41) 年指定]

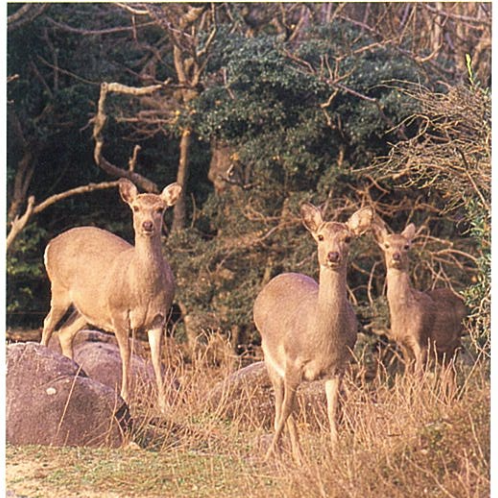


ホトトギス

● 県獣 けんじゆう -シカ-

シカは昔は五色台にもすんでいましたが、香川県では、現在、小豆島だけが生息地となっています。一時は絶滅寸前まで減ってしまいましたが、シカを守る人たちの努力で数も増えてきています。

[1966 (昭和41) 年指定]



シカ

● 県魚 けんぎよ -ハマチ-

昭和初期、野網和三郎の努力により、日本で初めて香川県でハマチの養殖技術が開発されました。ハマチは、大きくなるにつれて、モジャコ、ツバス、ハマチ、メジロ、ブリなどの名でよばれ、出世魚として知られています。

[1955 (平成7) 年指定]



ハマチ